評価区分

１．知・徳・体の調和の取れた子どもを育てる教育の推進

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
１-（１）学力向上の推進	１． 学力アップ土曜学習事業	【成果】 中学生学力アップ講座で、塾講師を招聘し受験対策の学習を行った。昨年度より参加人数が増加した。 【課題】 小学生の参加が減少傾向にあるため、周知方法、学習プログラムに工夫が必要。	B	A	A	★教員の業務負担を軽減することで、児童、生徒一人ひとりを大切にし、学力の向上に努力する取組は今後とも継続されたい。 ★参加者の減少はニーズにずれが生じているということ。学校と連携して生徒に何が必要かを把握し、入試対策として外部の力を利用しながら内容の充実を図られたい。 ★土曜学習事業は実施から約5年が経過し、再検討の時期にある。学校の授業とは違った視点で、9年間のスパンで児童・生徒の興味関心を引き出すような内容を考えるべき。 ★ICT教育は児童生徒の理解を深めるツールとして活用するとともに、教職員の指導力向上に向けた取り組みも行うべき。 ◎中学校の学力アップ講座では、数学に特化した学習であったが、数学以外の教科を希望する生徒もあり、今後の検討が必要である。 ◎学力UPのための土曜日学習の充実を図るとともに、家庭学習の一層の定着に向けた取り組みも必要。	1.学力アップ土曜学習事業 H28　小4回61人　中10回190人 H29　小4回41人　中11回121人 H30　小4回43人　中11回126人 　中学校については、学校とも連携しながら、生徒や保護者のニーズを把握し、学習内容や扱う教科について検討します。 　小学校については、「学力アップ講座」の参加者が著しく減少していることから、地域の人材を活用した教科学習以外の活動を提案したり、地域に出かけて学ぶ機会を提供するなど、内容の一新を検討します。 4.ICT教育実践事業 　本事業においては、成果物等を作成する過程でツールとして教育ＩＣＴを活用できることをねらいとしており、その過程においてはＩＣＴ機器の活用をとおして生徒間の協業が必須となることから、今後も“心”ある取り組みが進められるものと思われます。
	２． 少人数学級加配教員配置事業	【成果】 2クラス編成の少人数学級となり、一人ひとりに応じたきめの細かい学習指導を行うことができた。	A				
	３． 複式学級解消事業	【成果】 複式学級を解消したことにより、児童の学力向上及び教員の負担軽減を図ることができた。	A				
	４． ＩＣＴ教育実践事業	【成果】 機器の導入およびＩＣＴ機器活用において専門的知識を持った講師を招へいすることで、特色ある授業を実施し、中学生の学力向上につなげることができた。	A				
１-（２）国際理解教育の推進	５． 台湾台中市石岡国民中学校と相互交流事業	【成果】 姉妹校の絆を深める交流と国際感覚を養うことができた。相互で教員が授業を行い教員の交流も深めた。 また、石岡中学開校50周年記念式典にも教育長・中学校長・教務主任が招待され、有意義な交流を行うことができた。 【課題】 交流の発展に向けた交流内容の検討。	A	A	A	★台湾、フランス交流は他市町にはない三朝町の特色ある取り組みである。教員の負担感はあるものの、今後も大切にしてほしい事業。学校内に国際交流室を設置し、いつでも自ら学ぶことができる環境を学校と連携して作っておくと、生徒たちの意識は一層高まると思う。 ◎台湾、フランス交流とも中学生にとって大変良い体験になっていると思う。しかし、フランスや台湾についての学習が、中学校で全生徒に行う機会がない。この二つの交流事業をより有意義なものにするために、中学校で、台湾やフランスについての学習が行われることが望ましい。 ◎台湾やフランス等の交流事業が継続して実施されたいることは、大変有意義なことであるので、町全体の事業として盛り上げて欲しい。	5.6.国際交流事業 　派遣される生徒は、一定期間継続的な国際理解教育を受けていますが、その他の生徒は石岡中学訪問団受入時が中心になっている状況であることから、校内に国際交流室のような拠点をつくり、いつでも学べる機会を提供するような方法について、学校と調整をすることとします。加えて、派遣生徒だけでなく、学校全体でフランスや台湾について学ぶ機会をつくることで、学校全体で国際理解に対する機運が醸成できるような方法についても検討します。
	６． 中学生手作り訪仏事業	【成果】 ホームステイ、小・中・高等学校への訪問などにより、交流の発展へとつなげることができた。 【課題】 交流の発展に向けた交流内容の検討。	A				
	７． 外国語指導助手活動事業	【成果】 中学校英語授業のサポートおよび小学校外国語活動のサポートを行うことができた。 【課題】 新たに配置した小学校担当ALTと小学校教諭との間をつなぐコーディネーターの検討も課題となった。	B				

評価区分

１．知・徳・体の調和の取れた子どもを育てる教育の推進

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
１-（３）学校施設の整備の促進	８． 学校特別備品整備事業	【成果】　学校の要望に沿った整備を行い、学習環境の維持を図った。	A	A	A	★準備期間が限られている中での小学校統合ということを考えれば、教育環境の整備は最大限なされたと考える。 ★今後の児童・生徒の人数の推移を見極め、小中学校の連携を考慮に入れながら、子どもたちの多様化を考えると新校舎の建設を早期に実現することが望ましい。 ★タブレット端末を使った授業のあり方など、ＩＣＴ機器を実際に使用する現場の声に耳を傾け、環境の整備に繋げていただきたい。 ★中学校はH18の耐震改修以来、10年以上が経過し教室棟の廊下、教室の床の汚れがかなり目立つようになってきており、業者への清掃委託を検討されたい。 ◎各施設老朽化を考えると、次のステップに早く進んでいきたい。	10.学校施設改修事業 　新校舎建設を視野に入れた小学校施設の見直しを進める中で、中学校施設の老朽化に伴う対応についても見通しを持って取り組むこととしています。 11.OA機器等備品整備事業 　令和元年度中に、ＩＣＴ機器活用マニュアル整備を含めた「三朝町教育ＩＣＴ活用戦略」の策定を行うこととしており、学校現場の実態と要望に即した取り組み行います。 　また、上記戦略策定に向け、今年度も引き続き県内外の先進事例を学びながら学校での取り組みに反映させていく予定です。 9.施設維持修繕事業 　中学校施設清掃業務については大規模改修以降、多目的ホールのカーペット清掃と体育館のワックス掛けしか行っていない状況であるため、来年度予算要求し、校舎床および窓清掃を実施することとしたい。
	９． 施設維持修繕事業	【成果】　予定事業および追加事業の全てを完了。 【課題】　各施設とも老朽化により修繕必要箇所は多数あるが、財源の関係上最低限の対応に留めている。	A				
	10. 学校施設改修事業	【成果】　予定事業および追加事業の全てを完了。 【課題】　各施設とも老朽化により修繕必要箇所は多数あるが、財源の関係上最低限の対応に留めている。	A				
	11. ＯＡ機器等備品整備事業	【成果】　小学校教職員用PC更新は平成30年度で更新完了し、その後の計画を策定。 【課題】　小学校学習用タブレットの積極的活用検討と活用促進計画の策定。	A				

評価区分

２．郷土に学び、郷土を誇れる子どもを育てる教育の推進

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
２-（４） ふるさと三朝町を愛する子どもたちの育成	12. 三朝町創意と特色ある学校づくり推進事業	【成果】 学校ごとに特色ある事業に取り組み、児童生徒の感性を育めた。 【課題】 小学校統合により1小1中となったが、引き続き、特色ある学校づくりの取り組みを行うことで、児童生徒の豊かな感性を育むことを推進していく。	A	A	A	★小学校統合により、今まで培われていた狭義の地域の特性を今後どのように発揮するのか課題が残る。 「ふるさとを愛する子どもたち」をいかに育成するか、知恵とアイデアを絞って、より具体的な方策を考えていく必要がある。「お年寄りー大人ー若者ー子ども」、この“つながり”を大切にし、郷土の歴史を学び、文化を伝承することによって、郷土に誇りを持つようになると思う。 ★他に誇れる三朝町の施設や人材を活用した事業の推進を、今後もお願いしたい。 ★小学校統合後は小中連携のもと、中学校卒業までには英語で三朝町を紹介できるなど、9年間を見据えた特色ある取り組みが期待される。 ◎他にはない特色として、三朝町にはラジウム温泉や惑星物質研究所があることから、それらを活用・連携することにより「特色ある学校づくり」が一層進展する。	12. 三朝町創意と特色ある学校づくり推進事業 　小学校が統合したことにより、三朝町の特色について考え直したり、総合的学習で扱う教材を検討し直す機会となる。それぞれの学校で取り組んでいた内容の踏襲ではなく、三朝小学校としての特色を明確にしていくことができるように、学校とも協議を進めます。
	13. 総合的学習事業	【成果】 児童生徒が主体的に学ぶ力の育成ができた。	A				
２-（５） 地域で子どもたちを育てる	14. 大人の背中運動	【成果】 あいさつ運動には、地域の方々も参加していただき、生活習慣を養った。学校でも生活習慣を身に付ける取り組みを実施。 【課題】 あいさつ運動以外の取り組み検討。	A	B	B	★様々な事業が展開され、「子どもたちは幸せだなあ」と思う反面、「大変だなあ」という気持ちがある。とにかく忙しいのではないかと感じる。また、今後はさらに少子化が進行し「地域で子どもを育てる」ことが難しくなることから、学童クラブのあり方を考えていく必要がある。 ★実情に沿った子ども会のあり方を検討する必要があるのではないか。子ども会活動の事例を紹介するなどし、活動の継続・活性化を図っていただきたい。 ★時代の流れの中で学校教育と社会教育を融合したコミュニティスクールを導入することで、保護者や地域の方が当事者意識を持って学校運営に参画してもらえるのではないか。 ★スポーツ少年団活動や放課後児童クラブの導入等で地域での子ども会活動が成立しづらい状況。保護者研修会をして各地区で活性化を図る取り組みはできないか。 ◎あいさつ運動以外の大人の背中運動の取り組みも検討していただきたい。 ◎放課後児童クラブについて、前西小区は、手狭であるので、新校舎建設と合わせて、引き続き、検討していきたい。 ◎地域での小中高生の活動は、子どもたちの多忙化もあり、内容や参加者集めの抜本的な改革が必要だと考える。 ◎地域で子どもたちを育て、子どもたちが地域を育てるためにも持続可能なコミュニティースクールの導入も進めていきたい。	14. 大人の背中運動 　「履物をそろえる」は、小中学校とも生徒指導の具体的施策に上げて取組を進めてますが、家庭にまで浸透しているとは言えない状況です。「ノーテレビデー」のように、啓発活動を継続していきます。また、テレビ以外のメディアによる生活習慣の乱れやトラブルが現代的な課題となっており、そうした側面にも目を向けた取り組みを検討します。 15. 地域が育てる子ども総合対策事業 　子どもたちの野外活動等の体験の場としては、小学校統合により南小土曜学校は終了し、青空体験塾であわせて実施します。 　また、活動内容については地域協議会の協力をいただき、地域のつながりや魅力発見ができるやり方を考えていきます。 18. 放課後児童対策事業 　新校舎整備と併せて統合後の放課後児童対策の検討を進めるとともに、現在の西学童クラブの施設環境改善に取り組みます。
	15. 地域が育てる子ども総合対策事業	●青空体験塾 【成果】 多くの子どもたちが野外活動(自然体験)を通して心身ともに成長した。 【成果】 ●南土曜楽校 地域とのつながりや地域の魅力を発見することができた。	A				
	16. 三朝町、城陽市文化スポーツ交流事業	【成果】 参加児童からとったアンケートの結果、高い満足度と城陽市の児童としっかりと関係を築いたことがうかがえた。 【課題】 児童への接し方は職員の経験に依るため、一定以上の水準を確保するため方策を検討する必要がある。	A				
	17. 未来を拓けみささっ子創造事業	【成果】 県総体の予選前、またワールドカップを直前に控えた時期でもあり、実技講習や講演について関心の高さがうかがえた。 【課題】 継続実施に当たっては、著名な講師の選定及び交渉準備が課題である。	A				

評価区分

２．郷土に学び、郷土を誇れる子どもを育てる教育の推進

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
２-（５） 地域で子どもたちを育てる	18. 放課後児童対策事業	【成果】 近隣市町では高学年の受入制限を実施しているが、本町においては全学年の利用希望児童を受け入れている。 【課題】 小学校が統合し、当面の間、3つの学童クラブを運営することとなったが、西学童クラブの施設拡張や運営方針の再検討を進めていく必要がある。	A	B	B		19. 青少年団体育成事業 20. 子ども会育成事業 　学業、部活動、習い事など児童、生徒の多忙化は実感しています。一方で、そうした様々なコミュニティに属していない児童、生徒も一定数いるものと思われるので、そうした子供たちが地域等と関わりを持てる受け皿となれるよう研究を進めます。
	19. 青少年団体育成事業	【成果】 高校生サークルの立ち上げを計画したが、高校生を集めることができなかった。 【課題】 従来の募集方法では集まらず、方法を見直す必要がある。	D				
	20. 子ども会育成事業	【成果】 子ども会活動に係る事故等に備えた保険加入の支援はできているが、活動の活性化はできていない。 【課題】 子どもの人数により各子ども会の活動内容に大きな差があり、一律の研修会等を行うことは難しい。	C				
２-（６） 家庭教育の充実	21. 小中学校ＰＴＡ連絡協議会事業	【成果】 連絡協議会に参加しPTAとの連携を深めた。 【課題】 小学校統合により、本会は解散となったが、学校運営にPTAとの連携は不可欠であることから、引き続き、連携を図る必要がある。	A	A	A	★教育行政として、学校として、どこまで家庭に入り込んで、問題点の解決のために一緒になって考えていくか難しい点はあるものの、保護者の悩み事を聞いて問題点を共有することが大切である。 ★同世代の保護者の悩みをお互いに語り合う場の設定が必要である。子育てに関しては、例えば「支援センター」を活用してもっと保護者同士が話をしてはどうか。 ★小中連携の一環で、PTA部会の連携も必要。合同研修会の開催や、合同PTA部会の開催、スポーツ交流など保護者の連携ができやすい環境づくりをお願いしたい。 （小中合同の広報誌を発行してはどうか） ◎教育の充実はもとより、不登校・虐待等の対策・防止のため連携強化が必要。	21. 小中学校ＰＴＡ連絡協議会事業 　小学校が統合し、1小1中になったことから、今後、さらに学校運営とPTAとの連携が重要となってきます。学校教育としての取り組みだけでなく、社会教育分野も含め学校と家庭、地域、行政がいっしょになって活動を展開していく必要があります。
	22. 家庭教育支援基盤形成事業	【成果】 各保育園、小中学校等に講座開催の要望を確認し、要望があった施設で開催できた。 【課題】 学校ごとの単発事業で行っているが、小中学校合同の研修会など、縦のつながりを持った講演会の開催についても検討する必要がある。	B				

評価区分

３．子どもの実態に応じた、多様な学びを保証する教育の推進

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
３-（７） 家庭、地域、こども園（保育所）・学校、行政の連携強化	23. 三朝町教育研究会事業	【成果】 本県のトップアスリートによる怪我防止の研修や県外付属小教諭による授業研究会および教育講演会をとおして教員の指導力向上に努めた。 各部会の活動をとおして、保小連携、小中連携を充実させることができた。 【課題】 小学校が統合し、本会は解散となったが、事業趣旨を継承した取り組みを継続していく必要がある。	B	B	B	★組織の再編を検討するとともに、教職員の指導力向上を図るための研修は今後とも継続して実行していただきたい。また、できる限り数値目標を定めておく方が評価しやすい。 ★互いの研修のみならず、連携を深める貴重な機会でもあるので、今後も充実した研修となるよう継続していただきたい。 ★小中連携の充実を図り、それぞれの授業力の向上や生徒指導上の課題の共有や解決に向けての取り組み等を実施していく必要がある。 ◎会員の意見も参考にしながら、継続して実行性のある研修を図ってもらいたい。	研修機会の確保というより、保(こ)小中（高）の接続システムの構築という意味で、町教研の流れを受ける組織が必要だと考えます。「保(こ)」でのアプローチ・カリキュラム、「小」でのスタート・カリキュラム等がつながりのあるものにするためにも、単に情報交換をするだけではない連携の場を考えていきます。
３-（８） 特別支援教育の充実	24. 特別支援教育事業	【成果】 支援員の配置によりスムーズな授業運営ができた。 【課題】 小学校統合後も、支援が必要な児童に寄り添う人員体制の確保が望まれる。	A	A	A	★ひとりの児童生徒を組織として対応していく組織マネジメントが必要である。また、児童生徒の情報が共有され、継続的に指導されていくシステムを改善していくことが望ましい。 ★今後も支援員の確保、課題の発見と対策に努めていただきたい。 ★支援員の配置は学校現場では非常にありがたい。今後も支援員研修会等の充実を図り、支援のあり方、学校内での連携の工夫など小中の連携を図ってほしい。 ◎小学校統合後も、引き続き児童に寄り添った支援の確保をお願いしたい。	近年の社会情勢の変化に伴い、支援を必要とする児童生徒も増加傾向にあるとともに、発達特性も多様化しています。小学校は統合しましたが、今後も個々の特性に応じた支援体制を確保していきます。
３-（９） 開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携	25. 学校支援推進事業	【成果】 継続依頼したコーディネーターや学校の調整により、各学校において、多くの方に学校サポート隊として学校事業へ協力いただくことができた。 【課題】 タイミングを逃さない支援を求める学校と、活躍の場を求めるボランティアのニーズをうまく結びつけるために、学校とコーディネーターの連携強化に努めることが必要。	B	B	B	★家庭、地域の人々に学校側の熱意が伝わっていないのではないか。漠然と募集をかけるのではなく、必要性を熱く訴えることが必要であり、学校の応援団である学校評議員を大いに活用すべき。 ①学校の現状などに関わる情報を可能な限り学校評議員に開示し、学校への理解を深めてもらう。 ②その情報にもとづいて、学校評議員が保護者や地域住民の意見や要望を聞く。 ③意見や要望を取りまとめ、検討して、学校・学校評議員が一体となって保護者や地域住民に説明し、理解者・協力者を増やしていく。 ④学校と地域の新たな関係づくりが促進され、特色ある学校づくりに結びつく。 ★サポート隊の活動は、子どもたちの安心・安全の確保、また人間関係を育む貴重な機会であるため、体制の充実を図っていただきたい。 ★コニュニティスクールに移行することで、ボランティアで関わっていた方も学校運営の当事者として意識も変わり、一層の充実が図れると思う。 ◎統合により、1小1中になったので、より学校を地域の力で支える体制の強化をお願いしたい。また、ボランティアの内容の再検討をしたい。	学校やボランティアのニーズを的確に把握するためには、お互いの意見交換が重要であると考えます。小学校統合を契機として学校とコーディネーターの連携強化を推進します。 また、地域との関係づくりを進めるためには、地域協議会の協力は不可欠であることから、活動の周知や協力依頼等の働きかけを積極的に進めていきたいと考えます。

評価区分

４．主体的に学び、自分で考え、判断し、行動できる子どもを育てる教育の推進

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
４-(10) 社会に適応する能力の育成	26. 命を大切にする学習事業	【成果】 命の大切さについて学習を深めることができた。 【課題】 今後も子育て家庭や地域と連携しながら、多くの場面を想定した取り組みを継続することが重要。	A	A	A	★生命が誕生し、育まれていくことの意味の大切さ、深さを教えることは意義深いものがある。自分を大切にすることはもちろん、日本には他人や物に対する穏やかで優しい視線を持った“和”の精神、“情”の心が息づいている。この精神と心を大切にする子どもたちを育成してほしい。 ★命を大切にする学習が、さらに普段の生活や人権学習など様々な場面につながり、積み上げられていくことを願う。 ★専門家と連携した取り組みは効果も高い。児童・生徒のアンケート結果等も加味し、今後も継続していくことが望ましい。 ◎専門家指導の命の学習が多く行われ、成果を上げている。引き続き、この学習を継続していただきたい。 ◎現在の施策も大切なので継続してほしいが、「自分を大事にする」学習も工夫して取り組む必要がある。	小学校統合後も、引き続き、学校や地域、子育て世代と連携を図りながら、テーマを選定するとともに、専門家（保健師や助産師等）を招へいし、児童生徒たちの自尊感情を育てるとともに、「いのち」の存在を「人ごと」感覚ではなく、「自分のこと」として捉えることができる意識付けを行う教育に取り組みます。
４-(11) 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	27. いじめ問題調査委員会開催事業	※該当事案なし	―	B	B	★いじめる児童生徒に対しては、いじめることが非人間的な行為であり、他人の人権を侵す行為であることに気付かせ、他人の痛みを理解できるようにする指導を徹底することが大切である。 ★不登校の原因・背景は、家庭に問題があるケース、学校のあり方（友達関係、教員との関係）が関わっているケース、心因性の問題と考えられるケースなど様々であり、児童生徒の立場に立った教育相談体制をさらに強化していただきたい。 ★不登校はどの児童生徒にも起こり得るものであり、学校内で児童生徒の居場所を見つけてあげることも必要である。また、気軽に相談できる先生（相談員・支援員に限らない）、部屋、時間を確保することも重要である。 ★スマホを持っている中学生もいる。いじめにつながることのないように対策を講じておく必要がある。 ★不登校児童・生徒を持つ家庭を支え、連携して解決していくことは学校だけでは難しい。専門的なSSW（スクールソーシャルワーカー）の導入等、直接、家庭に入り込める立場の人材が必要。 ◎引き続き、継続していただきたい。 ◎各施策に対してしっかり対応しておられると評価する。 ◎不登校やいじめ対策については、生徒や保護者に対ししっかり対応しているが、社会状況の変化に対応できるよう常に情報収集に努める必要がある。	28～30いじめ、不登校対策 児童生徒を対象にハイパーQUを実施し、早期に課題を見つける調査を行っているところです。 中学校は生徒指導推進委員会を月１回開催、職員会でも情報共有を行っており、学校全体として共通理解を図っています。 引き続き、小さな変化を見逃さないよう教職員等に見守り活動を行っていただきます。
	28. 心の教室相談員設置事業	【成果】 相談員が優しく見守り、個々が抱える課題を気軽に相談できる関係を築くことができた。 【課題】 生徒に個人差があり、すべて対応することは困難であった。	B				
	29. 不登校対策支援員配置事業	【成果】 頻繁に家庭訪問（迎え）を行っており、生徒とのつながりは保てている。 【課題】 頻繁に生徒と接しているものの、不登校生徒はなくならない。小学校でも対策を検討する必要がある。	B				
	30. いじめ、不登校対策事業	【成果】 ハイパーＱＵ調査により学校生活での心の状態を把握し、教職員による早期対策の検討ができた。 【課題】 状態を早期に把握できるが、不登校児童生徒はなくならない。	B				

評価区分

４．主体的に学び、自分で考え、判断し、行動できる子どもを育てる教育の推進

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
４-(11) 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	31. みささ町かがやく子どもフェスティバル開催事業	【成果】 事前に関係者で検討会を行い、日程や内容について見直しを行った。ものづくり体験とステージでのイベントを午前と午後の部で分けて実施した。 子どもを対象としたものづくり体験ブース、ダンボール紙相撲大会ともに活気あふれる事業となった。 【課題】 ステージでの体験発表においては観覧者が少ないため、より多くの方に参加していただけるよう改善が必要。	B	B	B		
４-(12) 小学校統合の推進	32. 小学校統合事業	【成果】 3小同時統合の方針決定後、8か月という限られた期間の中、地域、保護者、学校教職員の協力のもと、統合準備を進め、三朝小学校の開校を実現できた。 【課題】 統合後の課題として、教育施設の充実や学童クラブ施設の整備など、今後も協議すべき事項があり、スピード感を持って取り組みを進めていく必要がある。	B	B	B	★やさしく、たくましく、強く生き抜く児童生徒を育てていくために関係者が“和”の精神で頑張っていただきたい。また、新校舎建設（中学校を含める）の実現に向けて尽力いただきたい。 ★課題を整理し、それぞれ誠意ある対応をお願いしたい。 ★統合した小学校が4月からスタートした。「統合して良かった」と保護者や地域から声が上がるような成果が求められるとともに、特に東小、南小校区の児童の様子をしっかりサポートすることが大切。 ◎統合が決定後、8か月の期間にできる限りのことはできたと思う。４月以降も、校舎の検討を継続したい。 ◎新校舎建築を含めた検討もスピード感を持って取り組んでいく必要がある。 ◎事務局には大変なご苦労をお掛けしたが、統合は成った。課題はまだまだ沢山あるので抜かりなく対処していかなければならない。 ◎統合後のアフターフォローを確実に行うとともに、今後の課題に対し適切に取り組む必要がある。	小学校統合後の児童のサポートについて学校現場と連携を図るとともに、残された大きな課題である新校舎の整備について、将来を見据えた望ましい校舎像を検討し、基本計画の着手に向けた取り組みを行います。
	33. 学校統合準備委員会開催事業	【成果】 8か月という限られた期間であったが、部会の決定方針等の報告事項を書面で行うなど進捗状況の共有を図り、効率的に準備作業を進めることができた。	B				
４-(13) 学校での安全対策と保護者負担軽減	34. 施設維持修繕事業			A	A	★事業のより一層の充実が図られているようであり、評価できる。 ★必要に応じて取り組むことが肝要。 ◎引き続き、安全対策と保護者の負担軽減に努めてほしい。	引き続き、安全な学校づくりと支援が必要な児童への保護者の負担軽減に努めます。
	35. 学校施設改修事業						
	36. 特別支援学校児童生徒通学支援事業	【成果】 利用者の安全を確保し、さらに保護者の負担軽減を図ることができた。 【課題】 引き続き、受託業者の確保に努める。	A				

評価区分

５．健やかな心と体づくりを推進する教育

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
５-(14) 健やかな心と体づくりの推進	37. 運動部活動外部指導者派遣事業	【成果】 外部指導者を2名に拡充し、外部指導者の専門性を生かした部活指導を行った。また、顧問（教員）の負担軽減を図ることができた。 【課題】 今後も学校と連携を図りながら、人材の確保に努めたい。	A	A	A	★部活動は、生徒の心身の成長において貴重な学習の場である。職員の働き方改革が進められる中で、安心して安全な部活動ができる環境づくりをお願いしたい。 ★外部指導者が生徒引率も可能な部活動指導員制度を導入し、教職員の一層の負担軽減を図ることも検討されたい。 ★生徒数が将来150前後となる中学校で、現在の部を維持することは困難となってくる。スポーツ少年団活動も含めた部活動の方針を検討する必要がある。 ★地産地消、栄養やマナーなど、食育も積極的に進められており評価できる。 ★食育の推進は調理センターと連携を図り町全体としての取り組みとして行うこと。 ◎地産地消も大切であるが、食材が限定されることもあるので、地産地消の意義を今一度考えるべきではないかと思う。献立によっては、毎回同じ食材のものが出ることもある。食育の意味を考えた献立にしていただきたいと思う。 ◎運動部活動外部指導者が拡張したのは、働き方改革の面から見ても大変よかったと思う。さらに増加させていきたい。 ◎地産地消率94％は、素晴らしい結果だと思う。課題もクリアしていきたい。 ◎三朝町の特色でもある食育に関して、地域と連携を図り地産地消の確保に努めてもらいたい。	37. 運動部活動外部指導者派遣事業 今年度は、２つの運動部活動で外部指導者の派遣を行っており、教職員の働き方改革も含めて、部活動の実施方法について検討していきます。 38. 食育推進事業 ・地元でとれる旬の食材を使い献立をたてていますが、時期によって食材が偏りすぎないよう工夫しながら、地産地消率を維持していきます。 ・調理センターだけでなく、食に関連する所管課とも連携し、町のイベント等も活用して食育を積極的に推進します。
	38. 食育推進事業	●地産地消 【成果】 生産者と積極的に連携を図り、地域の特産を生かした給食の提供と、郷土愛を育てる支援を行った。 【課題】 生産者の高齢化により、三朝町産の食材調達が今後懸念される。 ●食育指導 【成果】 各小学校は学校まつりにおいて食体験や食を知る取り組みを行い、中学校では親子食育教室を開催した。 広報みささに食育レシピを掲載、また、中学校のホームページに毎日の給食献立と食に関するコメントを掲載し、保護者へ食の大切さを伝えた。 【課題】 学校給食での食育の取組みが町全体の食育に影響していくことができるように、さらに連携を深めていく必要がある。	B				
５-(15) 生涯スポーツの推進	39. スポーツ推進員活動事業	【成果】 推進員の定数配置により、本町の生涯スポーツの普及推進を図ることができた。 各種研修会に参加することで、資質向上を図ることができた。 今後もさらなる資質向上を図り、スポーツの普及推進に努めていく。 【課題】 主催事業の参加者を増加させる工夫が必要。	B	B	B	★推進員、指導員の技術力向上のための研修に参加することは大切なことである。今後も一流の方の理論と実践を実際に体験し、指導力を高めるとともに、それ以上に礼儀作法や人間性豊かな子どもを育ててほしい。 ★目標値である「指導員の資質向上」が、実施状況、成果などの記述からは評価しづらい。 ★スポーツ推進員の活動と体育協会の活動が今一つ住民に理解されていない面がありはしないか。活動の見える化に取り組んでいただきたい。 ◎体育協会活動事業では目標値の設定と成果が合わないのでは。 ◎東郷湖あやめ池スポーツセンターを参考とし、誰もが使用できる器具を設置することで、生涯スポーツの基礎とすることが出来るのではないかと思う。	39. スポーツ推進員活動事業 生涯スポーツの推進については、誰でも参加しやすい継続的な事業展開を行う必要があります。推進委員の定数を確保しましたので、今後は地域に根ざした活動を行うことで、スポーツに親しむ町民の数の増加を図ることを目標に取り組みを進めます。 40. 三朝町体育協会活動事業 体育協会は、スポーツ運動を通して町民の体育振興と健康増進及びその融和を図ることを目的としており、今後はより具体的な目標設定について検討します。 また、この目的を達成するため、郡民スポレク祭を中心に生涯各期にわたる各種スポーツ大会に参加を促し、町民の健康増進と体力づくりの向上を図ります。 さらに各競技部の指導者の資質向上を図るため、各種研修会への参加を推進し、生涯にわたりスポーツ活動を楽しめるよう、幅広い知識を持った人材育成に努めます。
	40. 三朝町体育協会活動事業	【成果】 年間を通じて各種スポーツ大会を開催し運営を行った。 郡民体育大会では、総合は男女とも４位に終わったものの、好成績を収めた競技もあった。 県民スポレク祭、中部駅伝大会への参加派遣、町駅伝大会の開催や各競技団体の強化育成を行うことで、町民のスポーツの進行と健康増進に寄与した。	B				

評価区分

６．生涯にわたって学び続け、自己の人格を研き、豊かな人生を送ることができる町の実現

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
６－(16) 生涯学習の環境整備と活動支援	41. 三朝大学開催事業	【成果】 各講座における出席者の満足度は高かった。 【課題】 受講者数が増えてきたことで、外部に出かける際の移動手段や会場のキャパシティーが問題となった。その解決策を検討する必要がある。	B	B	B	★生涯学習の一環として、さまざまな講座を開講して学習機会を提供することは良いことだと思う。ただ、いつも同じ方が受講される傾向にあるので創意工夫が必要である。 ★昨年度の様子を踏まえ、取り組みを前進させようとする姿勢が伝わり評価できる。 ★参加者のニーズに応じた魅力ある事業を実施していただきたい。受益者負担も時には必要ではないか。 ◎引き続き工夫を重ねて実施してほしい。	41. 三朝大学開催事業 ・引き続き、参加者アンケートや地区委員と協議し、受講生のニーズを把握しながら講座内容の充実を図ります。 ・バスの借上げ料など受講料では賄えない支出については、受益者負担をベースに事業を進めます。
６－(17) 人権学習の充実	42. 人権啓発講演会等事業	【成果】 ●人権講座について、ハラスメントやLGBTなど近年話題となったテーマで実施できた。それぞれ関心が高かった。 ●人権学級について、ほかの集会と合わせて実施するなど、開催について工夫協力をいただいた。 【課題】 人権学級について人口減少などを理由に開催しない集落がある。学習の継続の意義について理解していただくことが必要。 また、ワークショップ形式の参加型学習「心情と寄り添う」というプログラムで実施した。従前のビデオ上映と異なったため賛否両論であり、検討が必要。	B	B	B	★人権学級の参加者が減少傾向にあるのは残念である。人権教育とは、究極的には差別をなくすための取組ではあるが、切り口を変えて、社会的に感動するエピソードを取り上げたり、人権が保障された地域を作るために「共に未来を語り、ともに希望を語る場」として、また、消防や婦人会などの参画により、安全・安心な地域を作るために話し合う場としてはどうか。 ★人権学習は絶えず学習することが大切である。学習機会の継続と充実に向けて、より一層の工夫と努力が求められるのではないか。 ★人権学級の参加者は毎年減少してはいないか。PTA研修の一環に人権講座を位置付けるなど、学校との連携を図ると効果的だと考える。 ◎人権学級は、年齢層が幅広いため、提供する内容の選択が難しいと思う。しかし、ビデオ上映だけで終わるのではなく、自分の考えを言える場面つくりも大切であると思うので、意義のある人権学級を検討していただきたい。 ◎参加者の増加は、常に課題となっているが他の行事と併せた実施にするなど粘り強く参加要請することが必要。	42. 人権啓発講演会等事業 人権学習は継続することが重要であり、広く町民に人権学習の機会を提供していきます。 講演会や人権講座の内容については、参加者のアンケートに基づき、時勢に合わせた関心のある人権問題を考えていきます。 人権学級については、引き続き集落に協力をお願いし、座談会や寄合など集落行事と合わせて開催するなど開催手法について工夫していきます。
６－(18) 文化、芸術活動の振興	43. 青少年劇場開催事業	【成果】 優れた芸術に触れることで、健全な育成に資することができた。	A	A	A	★一流の作品を鑑賞したり、一流の人の話を聞くといった取組はすばらしいと思う。ましてや、一流の人に手ほどきを受けるといった取組は感動ものである。古典芸能の狂言を開催してはどうか。 ★本物に触れる機会を与え、豊かな感性、人間性を養う場を提供していただきたい。 ◎青少年劇場のような本物に触れる機会があってよい。 ◎より多くの町民が興味を惹くような取組(仕掛け) をする工夫が必要。	43. 青少年劇場開催事業 令和元年度事業では三朝中学校全校生徒を対象に「狂言」鑑賞会を実施予定です。 小・中学校が１校ずつになり実施調整が容易になったことから、鑑賞の内容によっては、小学校高学年と中学生の合同実施など、鑑賞機会が増えるよう検討、調整を図ります。
	44. 山口恵梨子杯将棋大会事業	【成果】 本年度は日程の都合により山口恵梨子氏本人の参加は叶わなかったが、里見咲紀女流初段と中村亮介六段を招いて開催。 【課題】 子ども将棋教室を開催したが参加者が少なかった。	A				
	45. 女流本因坊戦三朝大会開催事業	【成果】 なし	－				

評価区分

６．生涯にわたって学び続け、自己の人格を研き、豊かな人生を送ることができる町の実現

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
６－(19) 郷土芸能の伝承保存	46. 無形民俗文化財保存伝承事業	【成果】 補助金交付要綱に基づき経費の一部について補助金を交付し、文化財の保存伝承に資することができた。	A	A	A	★中学校生徒のボランティアも定着してきた。三朝区の行事という捉えではなく、町全体の文化的行事であるという認識を高めたい。 ◎国指定無形民俗文化財「三朝のジンショ」の伝承のため、今後も継続したい。 ◎常に検証しながら、保存活動に取り組んでもらいたい。	46. 無形民俗文化財保存伝承事業 　国指定重要無形民俗文化財「三朝のジンショ」の伝承に必要な補助を継続することは重要であると考えます。なお、「花湯まつり」は文化財指定ではありませんが、「三朝のジンショ」の活用という観点で支援できる点を検討し、観光交流課と役割を整理して取り組みを検討します。
６－(20) 文化財の保護・活用	47. 三徳山遺跡発掘調査等事業	【成果】 神倉「湯」地点においてトレンチ調査と、複数の遺構の測量を実施し、遺構のデータ収集及び解析に努めた。 また、氷室と推定される遺構が見つかるなど、年々新たな発見が続いている。 【課題】 調査指導を依頼できる有識者が１名のため、日程や天候等の関係で調査の進捗が大きく左右される。	B	B	B	★文化財の保護活用は大切なことであるが、現在、何をどのように実施しているのか、住民に上手く伝わっていないのが現状。 ◎町外へのアピールは、大変大切であるが、三朝町全体でも、この活動を浸透させるような工夫もしていただきたいと思う。 ◎三朝町全体の活動として、多くの町民を巻き込んだ取り組みを行う必要がある。	47～52. 三徳山等の文化財保護活用事業 　三徳山に係る調査を周知するため、三徳学講座や、霊場三徳山調査成果報告会を引き続き開催していきます。平成30年度には、特に調査集落の公民館での説明会や、地域協議会、老人クラブ等の要請による講師派遣も複数回実施したところでありますが、住民への浸透が不十分という指摘を真摯に受け止め、さらなる情報発信等の取り組みを行います。さらに三徳山以外の文化財を含め、学術的で難解な調査成果を分かりやすく、幅広く町民に伝える手法・媒体についても課題を整理し検討します。
	48. 三徳山総合調査報告書作成事業	【成果】 調査成果をまとめることで、三徳山の顕著な普遍的価値を証明するため、今後の調査研究の一助とすることができた。（完結）	A				
	49. 世界遺産登録促進事業	【成果】 日本山岳修験学会理事の山本義孝氏を講師に、神倉「湯」及び神倉神社の調査成果を周知し、三徳山の価値を再確認することができた。	B				
	50. 日本遺産魅力発信推進事業	【成果】 日本遺産サミットへの参加や、守る会への補助金交付を通じて、日本遺産の認知向上を実施することができた。守る会では大山開山1300年祭との連携によるＰＲが実施された。 【課題】 文化庁の補助は既に終了しているが、他事業の活用も検討しながら、今後も町独自に活用の取り組みを続けていく必要がある。	B				
	51. 名称及び史跡三徳山史跡等買上げ事業	【成果】 予定した全筆を購入、公有地化を行うことで文化財の適正な保護に資することができた。	A				
	52. 名称及び史跡三徳山修復事業	【成果】 各分野の専門家で構成される検討委員会が２回開催され、指導を受けながら実施された。平成30年度は建築工事及び防災設備工事の一部が実施され、予定した進捗が達成された。	A				

評価区分

７．図書館

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
1) 生涯にわたる自主的な学習を支援	53. 気軽に利用しやすい図書館づくり	【成果】 60代以降の高齢者の利用が増えている。 【課題】 小学生高学年～20代の利用が少ない。 「読む」こと以外の動機付で図書館に興味を持って頂くことも必要なので20代をターゲットとした行事を定期開催することが必要。	A	A	A	★気軽に利用する図書館づくりに、また子どもたちに視点をおき、いかに文字に親しませるかを考え創意工夫され努力されている。 ★三朝町の図書館は非常に利用しやすいと町外の来館者にも人気が高い。今後も活発な図書館事業を期待する。 ◎引き続き工夫を凝らし、活字に親しむ環境を作ってもらいたい。	53.気軽に利用しやすい図書館づくり 　引き続き、町民等に利用しやすい図書館施設を目指して、相談しやすい雰囲気づくりや、いつでも予約受取・返却できる工夫、リクエスト制度のさらなる充実などを図ります。
2) 暮らしや仕事の問題解決を支援	54. より豊かで質の高い蔵書体系の構築	【成果】 平成30年度新規に郷土資料371冊を受入。 学習資料（児童）の刷新ができた。 【課題】 一般書（実用書）の刷新が進まない。 音楽ＣＤを充実すること。 お薦め絵本の買換え及び複本の準備。	A	A	A		今後も知る自由を保障し学ぶ機会を提供するため、余暇や趣味を充実させるための資料・情報の収集や、年代に応じたきめ細かなサービス（特に高齢者の楽しめるサービス）を行うとともに、職員の専門性を高め、情報通信技術を積極的に活用したサービスの提供を進めます。
	55. ニーズに応えるきめ細かなサービスの提供	【成果】 予約件数が増加したが全件対応できた。また、相互貸借機能の操作を職員全員できるようにしたことで迅速な対応、情報の共有ができた。 【課題】 リクエストサービス以外のサービスについての周知が足りないこと。学校からのリクエスト件数が減少した。	B				
	56. 情報発信の強化	【成果】 図書館行事や季節の展示について写真付きで広報した。 【課題】 図書館利用についてより分かりやすい案内の提供が必要。また、定期的に情報発信を行うため、掲載情報の収集に努める。	B				
3) 学校・家庭・地域を結び、地域教育力の向上を支援	57. 移動図書館サービスの充実	【成果】 移動図書館車を計画どおりに運行できた。また、事業所巡回でボランティアと協同して利用者数が増加した。 【課題】 集落巡回で新規利用者の獲得がほとんど無かった。安全運行が課題（事故発生）	A	A	A		・いつでもどこでもだれでも等しくサービスを受けられる体制を整えながら、家庭・学校・地域と連携して子どもの読書活動や楽しめるサービスを推進します。
	58. 子どもたちの読書活動と学習活動を支援	【成果】 お話会に手遊び等を取り入れて内容が充実した。また、仁の里・菜の花で音読教室実施に協力した。 【課題】 職員の接客対応の研修を実施し、会話スキルの向上を目指す。また、お話会以外での読書推進策を計画実行する。	B				
	59. 乳幼児の読書に親しむきっかけづくり	【成果】 幼児期に親子で図書館利用の契機となっている。ブックスタート後の利用登録が多い。 【課題】 保育経験の豊富なボランティアに事業に関わっていただき内容をより充実させること。また、子どもに絵本の読み聞かせをする家庭が偏っているので、保護者への啓発が必要。その後の児童の読書活動にどう繋ぐのかが重要な課題。	B				

評価区分

７．図書館

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
4) 郷土の歴史と特性を大切にし、豊かな文化を創造する	60. 郷土資料の収集・適正管理保存・提供	【成果】 行政資料受入マニュアルを明確化し、保留となっていた郷土資料を新規に受入できたこと。また、チラシ・パンフレット・ポスターの配置を工夫したところ以前より持ち帰りが増えた。 【課題】 郷土資料展を開催できなかった。郷土資料について職員の「知る努力」が望まれる。	A	A	A	★郷土関係の資料がよく整理されている。 ◎引き続き工夫を凝らし、郷土資料の周知等に努めて欲しい。	地域資料および地域行政資料、情報（チラシ、パンフレット等）の収集と提供に一層力を尽くすとともに、展示等を企画して郷土資料の周知に努めます。
5) 人と本、人と人との出会いを広げ、ゆとりとぬくもりのある居場所づくり	61. 人と本の出会いの場づくり	【成果】 月毎に展示を入れ替えて本の紹介ができた。また、雑貨やＰＯＰを上手に活用して利用者の興味を引く展示となったので貸出になる本が多かった。 【課題】 今後も定期に実施して内容の充実を図るほか、展示に協力していただける機関を増やす。	A	A	A	★三徳山、三朝温泉に関するエッセイを全国から募集してはどうか。 ★図書館主催のイベント・展示を、総合文化ホールとタイアップしながら実施されてはどうか。	62. 地域住民の活動発表、コミュニティの推進 図書館活動への町民参画を企画するなど利用者との対話を重視し、利用者の声を活動に反映します。
	62. 地域住民の活動発表、コミュニティの推進	【成果】 クイズラリーに多数の親子参加があった。また、展示については行政機関と連携して実施できた。 【課題】 ミニ講座の開催ができなかった。早期に計画し、講師を選定して実現する。	B				
6) 安心、安全で居心地の良い施設づくり	63. 施設改修事業	【成果】 絵本コーナーを精選し、勧めたい絵本が利用者に分かりやすい配置にした。また、書架を移動して広く落ち着ける空間となった。 【課題】 床のメンテナンスを計画的に継続する。滞在型の利用者が増加傾向にあり落ち着ける空間を増やすことが望まれる。	A	A	A	★今後も気軽に利用できる図書館、居心地の良い図書館づくりをお願いしたい。 ◎図書館として、良い活動ができている。利用者が、落ち着ける空間作りをしていただきたい。 ◎引き続き、落ち着いて読書や本選びが出来る空間を創ってもらいたい。	63. 施設改修事業 施設、設備の老朽化に計画的に対応し、常に安心・安全な居場所づくりに努めるとともに、滞在型のレイアウトについても検討を進めます。

評価区分

８．総合文化ホール

※令和元年度より町長部局へ移管

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
1) 誇り高い文化が息づく町づくりの推進	64. 文化ホール自主企画事業	【成果】 伝統文化、文化遺産である「組踊」の鑑賞会は、大変好評であった。 【課題】 芸能、音楽など様々な文化に触れあう機会を提供する。ホールを満席にする事業を獲得することは難しいが情報を集めて多彩な芸術活動を招聘する努力を継続する。 自主事業計画にあたり、町民の企画・力をかりることも有効。	B	B	B	★メディアを使った広報活動に努力してください。 ★顧客のニーズに応えることも大切だが、三朝町の文化の拠点として内容にこだわった自主企画事業に努めていただきたいと思う。 ★魅力ある企画事業を実現していただきたい。	64. 文化ホール自主企画事業 　地域住民の総意と参加に支えられた施設を目指し、企画・運営・事後処理について民意を反映できる組織の立ちあげを検討します。（企画力の強化）
2) 交流の拠点として町民の自主的活動を支援	65. 町民サークル等の活動場所の提供	【成果】 文化サークルの内、15団体が文化ホールを360回利用し、町及び学校関係、鳥取県手話まつり、日本海ケーブルネットワークなど大ホールの利用があった。 全体では、約1,050回、約37,000人の利用があった。 【課題】 外部団体の大ホール利用は収入にも繋がるため、事業を招致できるよう取り組んでいく。	A	A	A	★文化ホールを多くの住民に利用してもらうというのが本来の目的である。だが、待っているだけではなかなか目的は達成できない。「攻め」、つまりいかにＰＲに努めるか。 　地域および近隣の住民が「行ってみたい」「参加したい」と思わせる事業を企画されたい。企画力がすべてであると思う。 　2階のフロアの有効活用を工夫する。 ◎引き続き、町内外の利用が増加するよう、努力していただきたい。 ◎多くの町民が利用したい催し等を開催し、地域の拠点としてもらいたい。	65. 町民サークル等の活動場所の提供 　各種団体・行政等に働きかけ施設を利用した取組に繋げます。 66. 定期講座の招致 　行政・各種団体と連携して世代に応じた定期講座を開催します。
	66. 定期講座の招致	【成果】 社会教育課主催のヨガ講座の利用 【課題】 文化ホール独自の定期講座を開催することができなかった。	B				
3) 快適な施設環境と自主運営組織の充実	67. 施設改修事業	【成果】 バリアフリー化を推進するため、トイレ内の物掛けフックも高齢者が使用しやすいように、低い位置に設置し、多目的トイレも車いすなどが使用しやすいように手摺が移動できるようにした。また、便座を温熱式に更新し冬場でも暖かく使用できるようにした。 【課題】 トイレの排水管が老朽化しており、今後修繕が必要。また、経年劣化のため、外壁改修、照明の配線、音響の更新などが必要となってきている。	A	A	A	★トイレは以前より綺麗になり、使い勝手が良くなった。 ★誰もが利用できるよう利用者の立場に立った施設づくりに今後も努めていただきたい。 ◎誰もが使用しやすい施設となるよう、引き続き取り組んでもらいたい。	67. 施設改修事業 　日常的な点検及び長寿命化計画の見直しを行いながら、計画的に施設改修を実施します。
	68. MOCオペレータの確保	【成果】 MOCは、自主事業、小中学校音楽祭、芸能文化祭、各種発表会などで舞台運営をサポートするなど、文化ホールの円滑な運営に寄与しており、新規会員1名増員となった。 【課題】 自主事業により活躍の場を提供することが必要である。	B				

評価区分

９．調理センター

基本施策	具体的事業	成　果　と　課　題	事務局評価	委員会評価	外部評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
施設管理	69. 施設設備及び調理機器老朽対策	【成果】 平成29年度から順次行っている機械の更新がすすめ、安定して給食の提供をすることができた。 【課題】 施工時期が限られるため、年度ごとに計画的な発注が必要。	B	B	B	★「三朝の給食はおいしい」と評判が高い。その伝統を継続していただきたい。 ★地産地消にこだわり献立を創意工夫なさっている取組に敬服し、感謝している。 ★不易のもの、流行りのものをうまく取り入れながら、子どもたちにおいしい給食を提供してほしい。 ★衛生と栄養に配慮した給食をこれからも提供していただきたい。 ★更新計画にそって安全安心な学校給食が提供できるよう機器・設備の更新を進めていただきたい。 ◎H30は、汚れた食器が続けて学校に届くことがあった。調理器具の整備が必要ではあるが、このようなことが再度起こらないよう、チェック体制も整えていただきたい。 ◎安全で安心な施設となるよう計画的に取り組んでもらいたい。	69. 施設設備及び調理機器老朽対策 ・施設整備、調理機器の年次的更新を引き続き行っていきます。 ・更新時期までに修繕が必要となる故障については、早急に原因の特定と修繕ができるかどうか、購入が必要かを検討し、安全、安心な学校給食を提供していきます。 ・食器の汚れのチェック体制の強化を行っており、今後とも衛生管理の徹底をします。